

「俳人金子兜太のふるさと皆野を巡る」当日投句優秀作品

平成二十八年一月三十日(土)

一句目 題「冬野」

金子兜太選

雪原や 鐵路に果ての あることを 葉子

生ふるものなきを愛でをる 冬野かな 谷岡 健彦

雨風の 突っ込んで来る 冬野かな 赤沼 青以

横澤放川選

冬野まで 太きことばを さきに行く 北中 理夜

生ふるものなきを愛でをる 冬野かな 谷岡 健彦

雪原や 鐵路に果ての あることを 葉子

橋本榮治選

天降る兜太の声や 冬野原 山田 康教

胸中に 赤き火のつく 冬野かな 小林 喜久子

どこまでも虚空や どこまでも冬野 本杉 みさ子

二句目

金子兜太選

禿頭の 与太悦ばす 雪女郎

岩下眞一

寒の飯 よく噛む兜太 寿（いのちなが）

森潮

与太が来た 母の歡喜や 冬晴るる

大森英

横澤放川選

待春や 背中合はせの 駅の椅子

堀 美津子

風神雷神 秩父の雪を 吹きとばせ

山川 小夜子

雪解水 魔崖のごとき 兜太句碑

田守 三里

橋本榮治選

寒の飯 よく噛む兜太 寿（いのちなが）

森潮

新句碑の 兜太の身の照り 雪の照り

赤沼 青以

句碑文字の カづよさや 春の泥

橋本 圭子